



校訓

友愛 忍耐 責任

# 一中だより



貝塚市立

第一中学校

令和3年度第10号

2022.2.8

## 反省を活かしてさらに良い学校へ ~校長室から~

昨年(こぞ)の12月に生徒と保護者の皆さんに「学校教育自己診断」にご協力いただき、ありがとうございました。

結果について、詳しいことは裏面の「考察」を読んでもいただきますが、私が特に取り上げておきたいものをいくつか紹介します。

項目	肯定	昨年度より
担任の先生は、私たちの悩みや相談事に応じてくれる	81%	+2%
私が間違(まちが)ったことをしたとき、先生は指導してくれる	93%	+3%

コロナ禍(か)の中で「安全、安心な学校」であるために、生徒の皆さんとの関係性は大事なポイントです。この結果を励みに、さらに「安全、安心な学校」づくりを進めていきます。

わかりやすい授業が多い	79%	-2%
授業中、自分の考えをまとめたり、発表したりする時間がある	82%	+2%

「わかる喜び、できる喜び」をもっと感じられる授業を増やしていくことが先生たちの大きなテーマです。もっと授業が良くなるようにさらに頑張っていきます。

体育大会や合唱コンクールなどの学校行事に積極的に参加している	94%	+3%
--------------------------------	-----	-----

とても高い結果で、先生たちは励まされました。

コロナ禍の大変な状況の中で、「今できることを精一杯する」ことを大切にして生徒の皆さんと毎日の学校生活を創ってきました。「学校教育自己診断」の結果を反省材料に、生徒と保護者の皆さんとともにさらに良い学校を創っていきます。今後ともよろしくお願(ねが)いします。

【一中ホームページもぜひご覧ください】

貝塚一中



外出控え

密集回避

密接回避

密閉回避

換気

咳エチケット

手洗い



**STOP!**  
**感染拡大**

— COVID-19 —

知らないうちに、拡めちゃうから。

## ふしんしゃそうぐう 【不審者遭遇の未然防止について】

生徒指導部より

今年度も、貝塚市には多くの不審者情報が寄せられています。一中校区でも、「声かけ」や「つきまとい行為」といった不審者情報が入ってきています。

つきまとい行為は、暴行や強制わいせつなどの重大犯罪にエスカレートするおそれがあります。以前は、日が暮れて暗くなってからの遭遇が多かったのですが、最近では登下校時や放課後に友だちと遊んでいる明るい時間帯に遭遇することが増えています。

登下校時や塾などの帰り道には、なるべく複数で行動するようにしてください。また何かあればすぐにその場から逃げ、110番通報をしましょう。

<不審者に遭遇したときはどうすれば良いか？>

1. 人がたくさんいるところまで走って逃げる
2. 大声を出す、防犯ブザー等を使う
3. 家族に連絡をとる
4. 子ども110番の家や公共施設に駆け込む



## 青少年のインターネット利用に係る保護者向けリーフレット

内閣府ホームページでは、中高生の子供を持つ保護者向けに、子供がインターネットを上手に・安全に使うスキルを習得するため、おさえておきたい4つのポイント「法令・規約などに違反する使い方をさせない!」「プライバシーを守ることは生命の安全に直結する!」「中高生のネット利用に潜んでいるリスクを正しく知り、一緒に考える!」「ペアレンタルコントロールからセルフコントロールへ!」についてのリーフレット及びいざというときの相談窓口を紹介しています。

右側のQRコードよりご覧ください。



内閣府 インターネット



## 自分とまわりの人の安全を守るために

新型コロナウイルスのオミクロン株による感染拡大が続く中、自分とまわりの人の安全を守るためには早め早めの対応が必要です。熱がなくても、頭痛やせきなどの症状が少しでもあれば、かかりつけ医に相談してください（休日や夜間は新型コロナ受診相談センター☎06-7166-9911へ）。また「大切な試験だから少しぐらい体調が悪くても…」という判断は、自分自身だけでなく、大切なまわりの人の安全を脅かすことにもつながります。体調不良のときは無理をせずに休み、試験や授業等の対応については学校に問い合わせてください。

令和3年度「学校教育自己診断アンケート」に関する考察は裏面をご覧ください

## 令和3年度「学校教育自己診断アンケート」に関する考察



コロナ禍以降、初めての実施となった昨年度のアンケートは生徒向け、保護者向けともに各項目において大きく数値を伸ばしました。困難な状況にあっても学びを、成長を、そして学校生活をあきらめなかった子どもたちのがんばりと、それを見守り、支えてくださった保護者の皆さまのお陰であると深く感謝いたしております。一方、「with コロナ」2年目となった今年度のアンケートではほとんどの項目で5%以内の小幅な増減となりました。以下、昨年比で大きく増減のあった項目を取り上げて、考察をしてみたいと思います。

生徒アンケートで昨年比5%を超えるマイナスがあったのは「授業でわからないところは、先生に質問している」で、昨年比6%減の64%でした。否定的回答の36%には「わからないところがないので質問していない」生徒も含まれるという楽観的な解釈もできますが、ここはやはり3分の1以上の生徒が「わからないところを質問できていない」「わからないところをそのままにしている」ととらえ、われわれの反省材料といたします。

今ある職業の半数は別の職業に置き換わると言われ、未知のウイルスとのたたかいを余儀なくされ、近い未来にはAIが人間の頭脳を超えるとされる、変化が激しく先を見通すことが困難な時代にあって、疑問点や課題を発見・解決する力、すなわち問題発見能力と問題解決能力は誰にとっても必須のスキルです。では、中学校生活において、それらのベースとなる「質問力」を身に付けるためにわれわれができることは何でしょうか？ 蒔田晋時さんの「教室はまちがうところだ」という詩にもある通り、教室とは安心してまちがえられる場所、わからないところは素直にわからないと言える場所であるべきです。わからないからこそ学びがあり、まちがうからこそ理解が深まるのです。そんな教室をめざし、教職員一同、より一層の安心できる教室づくり、信頼できる仲間づくりに取り組んでまいります。

生徒アンケートではそれ以外のほとんどの項目で1～3%のプラスとなりました。最高値は「体育大会や合唱コンクールなどの学校行事に積極的に参加している」で昨年比+3%の94%が肯定的評価となりました。合唱コンクールの様子につきましては、近日中にDVDを配付いたしますのでそちらでご確認ください。

保護者アンケートにおいて5%を超えるマイナスとなったのは「子どもは、積極的にクラブ活動に参加している」の64%で昨年比-7%でした。今の状況を考えればクラブへの入部やクラブ活動への参加を躊躇する生徒やご家庭の不安は当然ですし、実際に「クラブ活動で感染するのでは？」と心配されるお声もありました。また「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」等によって活動に制限がかかり、子どもたちが、がんばりたくてもがんばれない状況もありました。一方で、クラブ活動が子どもたちの大きな活躍・成長の場であることは論をまちません。感染予防とクラブ活動は二律背反する課題かもしれませんが、子どもたちの安全確保を第一に考え、状況を慎重に見極めながら、今後もクラブ活動の充実を進めてまいります。

保護者アンケートで大きなプラスとなったのは「子どもは、ボランティア活動に興味をもって参加している」の58%で昨年比+11%でした。例年、数値があまり芳しくない項目なのですが、今回は大きな改善を認めることができました。一中生の中で、相手のことを気づかい、思いやり、互いに助け合う心が確実に育っており、またそのことを保護者の皆さまが評価してくださっていることをたいへんうれしく思います。

一中では現在、生徒会や委員会、またクラブ活動や有志の参加者によって、挨拶運動や募金活動、ごみ拾い、破損個所の修復、生け花などのボランティアが行われ、さまざまな場面で生徒たちが主体的に活動に取り組む姿が見られます。ボランティア活動を通じて人や社会の役に立つことの喜びを知った子どもたちは、将来、社会に出たときに、人を支えることに生きがいを感じ、また人から支えられることに感謝を感じることができるようになることでしょうか。一中では、ボランティア活動はもちろん、学校生活のあらゆる場面で「人とつながり、社会とつながることのできる生徒」の育成を進めてまいりますので、保護者の皆さまにおかれましては、今後ともご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

今回は生徒向けアンケートをiPad（「ロイロノート」）、保護者向けアンケートを「Google フォーム」で実施させていただきました。お陰様をもちまして、例年に比べて、より早く、また正確な統計を得ることができました。

今回のアンケート結果をもとに、子どもたちの学校生活がより充実したものとなるよう、教職員一丸となって今後も教育活動を進めてまいりますので、今後とも学校教育自己診断アンケート及び本校教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

